

排水対策の徹底と丁寧な播種 作業で苗立ち数を確保しよう！

長岡農業普及指導センター
大豆情報No. 1

H 2 9 年 度 目 標

代表電話 0258-38-2554
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

○ 10a当たり収量：250kg以上、○ 2等級以上比率：20%以上

H28 年度実績（長岡農業普及指導センター管内全体）
10a 当たり収量：212kg、2 等級以上比率：23.6%

収量・品質の目標を達成するには、健全な出芽と適正な苗立ち数の確保が重要です。明きよ・暗きよの施工等による排水対策の徹底や丁寧な播種作業など、適期に的確な播種前～播種作業を実施しましょう。

播種前～播種作業のポイント

- ① 排水対策の徹底
- ② 基肥（+石灰）を必ず施用
- ③ 砕土率70%以上を確保（出芽・除草剤に影響）
- ④ 播種時期に応じた播種量を設定
- ⑤ 播種後速やかな除草剤使用・病害虫対策の実施

1 排水対策

大豆は、湿害に特に弱い作物なので、湿害回避のための排水対策は最も重要な栽培管理技術です。下記の技術対策を必ず実施し、排水効果を高めましょう。

- (1) 周囲明きよは深さ30～40cmとし、排水口を周囲明きよより掘り下げて、周囲明きよと排水口を連結させる。
- (2) 弾丸暗きよは深さ30～40cmとし、周囲明きよと接続させる。
- (3) 管理作業の後や降雨後は、必ず周囲明きよや排水路を点検し、崩れた箇所の手直しを行う。



✗ 排水口と明きよが連結されておらず、排水されていない！

2 施肥

根粒の着生には、播種後30～40日程度かかります。根粒菌が働き始めるまでのつなぎとして、地力に見合った基肥を施用しましょう。

【基肥の目安】

	施用分量 (10aあたり)	基肥例 (10aあたり)	
窒素	1.5～2.5kg	ニュー大豆800	20～30kg
リン酸	6.0～8.0kg	有機入り大豆配合2号	20～30kg
加里	6.0～8.0kg	ワンタッチ大豆	40kg
石灰	pH目標値：6.0～6.5	マグクリーン	60～80kg

※1 地力の低いほ場では、緩効性肥料（例：ワンタッチ大豆）を施用することで収量・品質の向上が期待できる。

※2 土壌のpHの低下に伴って、栄養分の吸収が抑制される。土壌pHを確認し、必要に応じて石灰を施用する。

3 耕起・碎土・整地

碎土率は70%以上(2 cm以下の土塊比率)が目標です。

- (1) 碎土が不十分であると出芽が不揃いとなる。また、除草剤の処理層の形成も不均一となり、雑草が発生しやすくなることから碎土は丁寧に行う。
- (2) 耕起と播種は一連作業で行う(耕起から播種までの作業は同日)。耕起から播種までの日数が開くと、晴天による土壌の過乾燥や、降雨による播種条件の悪化等で苗立ちが悪くなりやすい。

碎土率向上のポイント

- ① 排水対策により、ほ場を十分に乾かす。
- ② 作業速度を遅くして、耕うんピッチを小さくする。
(2回以上耕うんする場合、1回目の耕うんが粗いと、碎土率が上がらないので、特に1回目の耕うんを丁寧に行う。)
- ③ アップカットロータリを用いる。
(アップカットロータリを用いることで、表層に細かい土塊が集まる。)

4 播種

播種時期に応じて播種量を調整して、目標苗立ち数を確保しましょう。また、湿害を受けにくく、出芽並びに初期生育が良好になる畝立播種を取り入れましょう。

- (1) 播種時期に応じて播種量を調整する。

【 畝立播種の目安 】

(品種:エンレイ)

	単 作	麦 跡
播種時期	5月25日～6月10日	6月20日頃
目標苗立ち数	10本/m ²	14本/m ²
必要種子量	3.3kg/10a	4.7kg/10a

※ 畦幅75cm、出芽率90%、百粒重33gとして算出

畝立播種は出芽が安定し、平播きよりも苗立率が多くなり、過繁茂になりやすいので、播種量に注意する。また、畦の高さは10cmを目安とする。

【 平播きの目安 】

平播きは、畝立播種に比べて播種量を1割程多く調整する。

- (2) 播種の深さは表面から3～4 cm程度とし、圃場が乾燥気味の場合はやや深めに、土壌水分が高い場合はやや浅めに調整する。

5 雑草対策

播種後の速やかな除草剤散布で雑草の発生を抑えましょう。

- (1) 除草剤は雑草が発芽すると効果が劣るので、播種後なるべく早い時期の土壌が湿っている状態で散布する。
- (2) 乳剤の場合は、土壌が過湿状態でない限り、使用基準の範囲内で希釈水量を多くし、十分な量を散布する。

6 病虫害対策

紫斑病・アブラムシ類対策として、塗抹処理による種子消毒を必ず実施しましょう。

- 農薬を使用する際は、使用方法・注意事項等を必ず確認し、自己の責任において使用すること
- 農薬散布時は、周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意すること
- 農薬使用後は、防除歴として、記録・保管すること